

配布資料 3

- ・パブリックコメント意見提出期間：令和8年1月15日（木）から2月14日（土）
- ・意見人数：9人
- ・意見数：14件

意見番号	到着日	時間	ご意見（原文）	種別
1	2026/1/29	13:32:54	<p>西東京市は、図書館が市の直営であることから、市の図書館司書と学校司書が連携して子どもの読書活動を推進する状況がある程度整備されていると思います。ただ、P8記載のアンケート調査結果から、小学生以降、学年が上がるごとに1か月に1冊も読まない割合が増える傾向や中学生の読書離れが指摘されています。子どもたちが自発的に読書をする姿勢を身に着けるには、乳児のころからの取り組みが大切だということは共有され、様々な取り組みがなされていますが、ここでは、子どもたちが大半の時間を過ごす小中学校についてコメントします。</p> <p>各学校には学校司書と、司書教諭が協力して選書や読書環境の整備を行うようですが、学校司書は会計年度任用、複数校兼務で、1日6時間、週の半分程度の勤務のようです（東京都公立小・中学校 学校司書配置状況調査2024年5月1日現在）。<u>学校図書館が、教員と協力して子どもたちの学びを支える場を作るためには、複数年雇用、週5日勤務が必要ではないか</u>と思います。学校司書の役割は書いてありますが、生徒や先生の調べ学習のサポート、読書を始めるための働きかけなど、<u>学校司書の役割は重要で、各学校で工夫を凝らした専門的な活動を進める必要があるのではないのでしょうか。そのための環境整備への言及があれば</u>と思いました。</p>	学校司書の配置に関すること

意見番号	到着日	時間	ご意見（原文）	種別
2	同上	同上	<p>もう一点は<u>電子書籍</u>についてです。</p> <p>P20に、「電子図書のジャンルや内容については、その時々<span style="text-decoration: underline;">の流行や社会状況を鑑みながら</span>、収集の方向性を検討してきます」とあります。</p> <p>現在多くの図書館では電子書籍の導入の課題が、専門員と予算不足で、アクセスできる環境を優先する方向に進んでいます。ただ、紙の書籍と同様に、選書は重要な課題であることは論を待たないのに、その基準について検討することになっているのでしょうか。たとえば、長野県が策定している「市町村と県による共同電子図書館コンテンツ選書基本方針」にあるように、<u>収集方針を検討する視点を簡潔に記載してほしい</u>と思います。「その時々<span style="text-decoration: underline;">の流行</span>」ではなく、例えば「新鮮で適切なコンテンツ構成を念頭に、社会状況を鑑みながら」などはいかがでしょうか。</p> <p>公立図書館や学校図書館の助けを借りながら3人の子育てをしてきましたが、6歳から15歳くらいまでの子どもたちにとって学校図書館の役割が大きいことを実感しており、一言コメントさせていただきました。</p>	電子図書館の収集方針に関すること
3	2026/2/7	21:58:52	<p>ひばりが丘図書館には、座って本を読める席もありますが、数が限られていると感じています。図書館ならではの静かな空間で、落ち着いて本を読む時間が好きなので、そのように過ごせる席やスペースがもう少し増えると、とてもうれしいです。</p>	ひばりが丘図書館の座席に関すること

意見番号	到着日	時間	ご意見（原文）	種別
4	2026/2/8	13:51:10	<p>70年前に地方で育った私は絵本を親に読み聞かせてもらった経験はありませんが、たまたま居を構えた保谷で沢山の絵本に親子で触れる機会に恵まれてきました。お礼の気持ちも込めて意見させていただきます。</p> <p>子どもの読書活動は保谷市、田無市の時代からの文庫活動からつながる歴史のある活動です。わが子も富士町文庫と柳沢図書館に足しげく通い絵本やお話にたっぷり触れて育ちました。私自身も我が子が通う小学校全学年に学級文庫と読み聞かせ活動で図書館から何十冊もお借りした日々は大変でしたが楽しく豊かな日々でした。また、現在も在学の親御さんがその活動が継続されています。これからも、<u>ひとりひとりの感性が大切にされて、成長期の子どもの感性に届く本を公共図書館と地域が共同して届けて下さることをお願いしたいです。</u></p> <p>孫のタブレット授業やSNSの活用に目を見張る日々ですが、子どもの成長や親子のやり取りの根源は変わらないものです。時代の流りや先取りだけに流されずに、その瞬間の子どもに響く本を学校司書さんに紹介いただきたい。小学生は素直に、中学生は仕方なく、でも学校から勧められた本を読みます。成長の段階で感じる思い。<u>先生も親にも言えない感情や考えをSNSで共感しあう時代ですが、どうぞ負けないで共感できる本に出会わせてください。文庫に訪れた子どもにそれとなく寄り添いさりげなく本をお勧めされた雰囲気は、きっと司書の皆さんに引き継がれていると期待しております。</u></p> <p>また、乳幼児向けの絵本ですが、今絵本ブームで沢山の新しい絵本が本屋さんを埋めてグッズも楽しく取り揃えて商品化ベースの時代ですね</p> <p>大人受けもあり親子で楽しめる絵本も多く出ています。それに伴い昔からの定番の絵本やお話が隅にまわされて置かれていないかの感じる今日この頃。<u>オーソドックスな絵本やお話を親子や保育園、幼稚園に引き継いでお勧めして頂きたいです。</u>じじばばが読んだ本、孫と絵本で共通の話題ができるのは世代を超え共感しあえる楽しみでもあります。</p> <p><u>子どもの読書活動は、土に種を蒔いてまいていく気の長い活動ですが、何十年後には必ず実りを実感できると思います。どうぞ、見守る市民が沢山いますので頑張ってください。</u></p>	<p>子ども読書活動の推進に関する こと</p>

意見番号	到着日	時間	ご意見（原文）	種別
5	2026/2/8	17:42:20	<p>手に取って読む「本/書籍」による読書の習慣や機会がスマートフォンを中心としたデジタルデバイスの普及と相まって全世代において低下しています。また「本/書籍」を購入して読むことは、物価高騰のなかで経済的制約からも機会低下が否めません。親世代を横目で見ながら子供は成長していきます。親世代の読書習慣がこども世代にも自然と伝わればよいのですが、<u>親世代自身が本を手に取り活字媒体に触れる機会さえ低下しつつある今日、家庭の外(学校や図書館など)において読書活動を支援する活動が一層重要であると感じます。知的好奇心の涵養や教養の深堀り、幅広い見方考え方を、活字媒体を通して吸収する機会を多面的に提供するという本計画には基本的に賛同いたします。</u></p>	活字媒体の読書に関すること
6	同上	同上	<p><u>公共サービスとしての図書館は、身近なロケーションにあってこそ気軽に立ち寄れる存在で、市立図書館の一層の充と空白地域への新設が求められます。旧保谷庁舎跡地の有効活用策としても、市内の核となる図書館の新設と中央図書館機能の移転を希望します。スポーツセンター・こもれびホールと合わせて西東京市の文化拠点としての位置づけが明確になると思います。祖父母世代～親世代～子供世代と市民各層が気軽に立ち寄れる図書館の存在は、更なる次世代に読書のバトンを渡すことのできる(西東京市なにに住み続けたいと思える)貴重な場となります。いい図書館のある街はステキです。</u></p>	市内図書館の設置に関すること
7	同上	同上	<p><u>図書館に従事する職員は業務の専門性に鑑み、より業務に対する理解と意欲ある方の配置を希望します。腰を据え意欲をもって業務に当たっていただけるよう、有能人材雇用の安定拡充を実現する正職員化など処遇改善を行い、管理者についても役所内人事ローテーションで単純に行うことなく配置いただきたいと希望します。</u></p>	図書館職員の配置、人事に関すること

意見番号	到着日	時間	ご意見（原文）	種別
8	同上	同上	<u>学校司書はよりよい子供の読書機会を提供する接点として重要な存在であることに鑑み、兼務ではなく各小中学校に専任任配置することを希望します。</u>	学校司書の配置に関すること
9	同上	同上	<u>本/書籍の「ページをめくる楽しみとわくわく感」はとても大切です。電子書籍の有効性を否定するものではありませんが、今後のAIの普及と電子デバイスの利用拡大は、自ら考える力をそぐことにもつながりかねないものと考えます。<u>リアルな本/書籍の相対的な位置づけ低下(予算面含めて)になることなく電子書籍の取扱いをすすめるよう希望します。</u></u>	電子書籍の取り扱いに関する こと
10	2026/2/8	20:19:52	<u>図書館が遠くてこまっています。栄小学校の2年生です。北町2丁目にすんでいます。家から図書館に行くには30分以上歩きます。線路をこえるし、車が多いので1人では行けません。学校の図書室では3さつかりられます。はとさん文庫でも4さつかりられます。でも本が好きで、もっと色々な本や図鑑をたくさん読みたいです。<u>青嵐中学校や北町コミュニティセンターでリクエスト図書の受け取りや返却ができるようになったり、移動図書館があるといいのになと思います。</u>よろしくおねがいします。</u>	市内図書館の設置に関する こと

意見番号	到着日	時間	ご意見（原文）	種別
11	2026/2/10	12:48:27	<p>子どもが栄小学校に入学したいということで、西東京市に引越してきました。小学校での読み聞かせにも参加させて頂いています。本当にとても素敵な取り組みだと、毎回感動しております。小学校で読書の習慣化を促す取り組みや工夫がたくさんあり、上の子は図書室が大好きで、毎週本を借りてきては楽しく読んでいます。また、上の子が3歳から参加させて頂いているわらべうたの会も、今3番目の1歳の子どもまで継続して参加させて頂いています。家族でわらべうたを楽しんでおり、お気に入りのコミュニケーションのひとつです。わらべうたの会でご紹介頂く絵本のおかげもあり、子どもたち3人ともすんなり、本を読むことが日常になっています。図書館へもよく行きますが、小さい子も本を手に取りやすい工夫がたくさんあり（キッズスペースや絵本パック、おすすめ図書コーナーなど）とても利用しやすいです。西東京市の長年の取り組みと、それを支えてこられたたくさんの方々のお陰様で、私たち家族も日常の中で自然と本と触れる機会が増えました。本当にありがたく思っております。</p>	子ども読書活動の推進に関する こと
12	2026/2/11	18:31:09	<p>中高校生の不読率の低減のために、乳幼児期から中高生までの切れ目なく読書習慣の形成を促せる、読書への関心を持てる活動ができる学校、地域図書館を誰でも利用できるようにしたい デジタル社会を否定せず、さまざまなニーズに対応できる読書環境がほしい</p>	子ども読書活動の推進に関する こと

意見番号	到着日	時間	ご意見（原文）	種別
			<p>私は以前西東京市に住んでおり、1998年から「『日本語』で交流・虹の会」というボランティアグループに属し、日本語を母語としない人々の日本語学習支援を行ってきました。虹の会は、毎週火曜日18:30~20:30柳沢公民館で活動していますので小中学生の参加も多く、私はここ15年ほど主に小中学生を担当してきました。練馬区へ転居後も活動を継続し、西東京市の子どもたちを見続けてきましたので、その中で感じたことをお伝えしたいと思います。</p> <p>外国へ移動して育つ子供の言語教育について、「生活言語」と「学習言語」ということが言われます。生活言語とは日常生活場面でのコミュニケーションであり、1~2年で年齢相応の力がつくが、学習言語能力が十分伸びるのはずっと遅れて5年あるいはそれ以上かかるので、より長く継続した学習支援が必要だそうです。日本に移動してきた外国の子どもたちにも、これはぴったり当てはまると思います。小中学校のどのクラスにも1~3人は在籍しているのではないのでしょうか。生活は送れるようになったが、語がまだ日本語の力が不十分で学習についていけない子供たちは、この素案の「はじめに」にある「特別な配慮を必要とする子供」だと思います。その長く継続する学習支援の方法として有効なのが「本を読む」こと。彼らが「本を読めるようになること」が大切だと私は考えます。そのために、図書館が、とりわけ学校図書館が大切な存在だと思っています。</p> <p>くり返しになりますが、具体的に説明させてください。海外から来た子供に、西東京市では日本語指導員</p>	

意見番号	到着日	時間	ご意見（原文）	種別
			<p>が取り出し授業（100時間まで）を行い、学校内での日常生活を送ることができるあたりまでの日本語を指導します。給食を食べ、給食当番や掃除、日直、係などをこなし、遠足や運動会などのイベントに参加して役割を果たせるようになります。担任との意思の疎通もなんとかでき、友だちとも話ができ日常生活は送れるようになり、一見特別な支援は必要なくなっただけに見えます。ひらがな・カタカナからはじめて、日本語での学習へつなげられるような支援も受けました。クラスの授業でわかる部分もあるので、取り出し授業も終了されます。しかし、授業の成績はあがらなくてテストの答案や作文も書けず、何がわからないのか本人に聞いてもよくわからないというような状態が続きます。本人の能力の問題ではないかと疑われたりしますが、日本語の能力不足の場合が多いです。これらの子供たちが先へ進むために必要なのは、本を読むことだと思います。たくさんの日本語に触れて、「読む」「書く」ことに慣れると、語彙の数も増え、日本語の本から様々なことが読み取れるようになり、自分の考えを日本語で表現できるようになります。</p> <p>★素案の16頁、「IV 小学生を対象とした取組」について  【低学年】… <u>一人読み、黙読ができるようになる。</u>  <u>日本語支援が必要な子どもたちには、この部分のハードルがことのほか高いのです。</u>日本語は「話し言葉」と「書き言葉」の差が大きい。会話では省略されることが多い助詞や文末を、きちんと書かなければ文章にはなりません。また、助詞の「へ」「は」、促音、長音（お父さん、大きい）など、音と表記が違っているものが多い。耳から聞くことで日本語を覚えてきた子供には、戸惑いが多いです。保育園や幼稚園で集</p>	

意見番号	到着日	時間	ご意見（原文）	種別
13	2026/2/12	9:45:50	<p>団での読み聞かせを経験していても、親のひざで文字を追いながら読み聞かせされたことはなく、文字になった日本語を読むことを丁寧に教わることなく来ています。また、もっと高学年になってから来日した子供は、一度につきからつきへと日本語を詰め込まれ、引き続いて難しい年相応の教科書を与えられ、呆然とします。わかる日本語から段階を踏んで、とにかく本を読めるようになることが必要だと思うのです。まず、適切な本選び。西東京市の学校には学校図書館司書の方がいることが、大変心強いです。子供たちの本選びの相談に乗り、相談されなくても話しかけ、ぜひよさそうな本を手渡して、少しでも本と仲良くなれるようお力添えをお願いします。少しでも数多くの日本語に触れることで、徐々に日本語の文章に慣れ、まとまった文章の内容が機械できるようになります。</p> <p>小学生が過ごす世界は自宅と学校というごく狭いものです。その自宅の家庭内言語が日本語でない場合、親が見ないのでテレビがなく、天気予報もニュースもオリンピック中継も、アニメさえ見ないという子供もなかにはいるのです。日本語に触れるのはほとんど学校だけとなります。そんな子供たちにとって、学校図書館の本はものすごく大切なものです。フリガナがつき、様々なレベルでいろいろな物事を教えてくれる知識の本、楽しめる物語の本などが、彼らに日本語や広い世界の扉を開いてくれるカギだと思っています。</p> <p>【中学年】… 本を通して興味や好奇心が引き出され、疑問を解決できることを学ぶ。夢中になれる本と出会うことで読書習慣がつく。</p>	特別な配慮を必要とする子供に関すること

意見番号	到着日	時間	ご意見（原文）	種別
			<p>【高学年】… 読書を通じ体系化された知識を得て考察することで、自分の世界の広がりを感じられるようになる。</p> <p>学年が上がるに従い科目数が増え、教科書の文字数も多くなり、どんどん新しい言葉が出て、内容が高度になっていきます。調べ学習も多くなり、友だちと話し合ったり、発表したり…大変です。日常生活ではごく限られた語彙しか使わないのですが、<u>本を読むことで語彙が豊富になります。ある程度漢字の学習が進み、漢字から新しい言葉の意味が類推できるようになると本を読むのが楽になります。学校図書館での一人一人に合わせた支援をぜひお願いします。</u></p> <p>小中学校という成長期を日本の学校で過ごした子供は、日本語で知識を得て、論理的に物事を考え、自分の意見をまとめられようにならなければなりません。日本語が中途半端なままでは、幼少期どまりの母語と日本語のどちらでも論理的に物事を考えられない人間になってしまい、未来が描けません。</p> <p>★その他の活動：<u>図書館のおはなし会「放課後子ども教室」「まちなか先生」「児童館」について</u></p> <p><u>日本語力が不足する子供たちにとって、これらの場所で本や司書の方と出会えて読み聞かせやいろいろな体験をできるのはとてもいいことです。特に夏休みや春休みの長期休暇中に、イベントに参加したり、図書館や児童館に行くことはいいことだと思います。コロナ以降友だちとの付き合い方が難しくなっているようなので。ただ、日本語力が充分でない保護者の中には、自分でも、子どもにも知らないところへ行くことをしない、させない方もあります。図書館や児童館のことを紹介した多言語案内の紙を渡してはどうでしょう</u></p>	
14	2026/2/12	11:01:26	<p>今子どもたちの環境が、フェイクニュースやSNSなど判断が難しいものになってきています。ここでしっかりと子どもたちの土台を作っていくのが大人の役割と考えます。<u>いつも子どもが過ごす学校では、担任と共に子どもを見つめる学校図書館の役割がとても大切を思います。いつも学校図書館にいてくれる司書さんがいてこそ、子どもたちの読書環境が整うと思います。公共図書館と学校図書館の連携をより密接にしてください</u>いただき子どもたちを安定した成長を促してください。そのためには一校一名の専任の学校司書の配置をお願いします。財政難とありますが、子どもを育てることは市全体の成長につながってきます。外国からの人たちも増えていく中でそこにも対応できる人材の確保もお願いします。共に前を向いて生活できる西東京市の子どもたちの未来のためにぜひお願いします。</p>	学校司書の配置に関すること